

## 第12巻 編集後記

この文章を書き始めた2024年4月6日、のと鉄道全線再開が報道され、能登の美しい里山里海の風景がともなつかしく感じられました。近日中には能登鹿島さくら駅にも桜開花宣言が出るでしょう。そして、本年度もこの雑誌の編集作業に区切りをつける時期となりましたが、これほどの激変をもたらした「101の風景」が、なぜか記憶の中で遠い昔のように錯覚してしまう今日この頃です。

「種の起源」の著者チャールズ・ダーウィンは、「最も強い者が生き残るわけでも、最も賢い者が生き延びるわけでもない。生き残るのは最も変化に適応できる者である。」と述べています。恵寿総合病院が、能登半島地震においても平時と変わらぬ医療を提供し続けることができた要因は、2007年の能登半島地震後に、災害対策として大きな発展を遂げていたからに他なりません。我々ヒトの関わる発展は、様々な変化に遭遇したヒト自身の柔軟な適応力によって成し遂げられてきたものと言っても過言ではないでしょう。そして、医学においても、患者の様々な症候やデータから、既存の概念を超えた「変化」に気づいた者が、新たな知見に辿り着いて報告し、やがて有意義な医療の発展につなげてきました。ここにある恵寿総合病院医学雑誌第12巻における全ての報告が「新たな医療の種」となることを祈願し、「変化への気づき」に基づいた著者たちの今回の取り組みに敬意を表します。そして、大災害の最中、本年度もこの雑誌の発刊にたどり着けたことについて、すべての関係者の方々のご尽力に感謝を申し上げます。

今回の大きな変化を乗り越えた先に、未来永劫の発展につながる適応力に富んだ能登の姿が広がっていることを強く祈願して、巻末のご挨拶とさせていただきます。

2023年4月吉日

恵寿総合病院医学雑誌 編集委員長  
新井 隆成